

第2次高松市創造都市推進ビジョンにおける取組について

【工芸プロジェクト】伝統・芸術・デザインの手で新しい未来を拓く

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R3決算額(千円) R4予算額(千円)	実施実績 (指標)	実施実績 (数値)	実施実績(数値)に 対するコロナの影響 内容	実施実績上昇率 (前年度/前々年 度)	令和4年度事業内容	令和4年度におけるコロナの影響や コロナに対する具体的な対応や取組	令和5年度事業見込	今後の方向 性	主管課 (関係部署)
1	伝統的ものづくり 学校巡回教室	市内小・中学校へ伝統工芸の職人を派遣し、ワークショップ等を開催することで、高松の歴史を伴う伝統工芸に関する理解や関心を深めるとともに、情操教育の一助に寄与します。	4.8,9,12, 17	決算額:636千円 予算額:0円	参加者数/回数	平成26年度 404人/14回 平成27年度 360人/14回 平成28年度 280人/6回 平成29年度 138人/4回 平成30年度 299人/3回 令和元年度 268人/3回 令和2年度 262人/3回 令和3年度 147人/3回 令和4年度 実施なし	影響なし	56.1%	実施しない。	影響なし。	伝統的ものづくりの職人を希望のあった小・中学校へ派遣し、話を聞いたり、作品や作業風景を見たりする場を設ける。次代を担う子どもたちの自分自身の住んでいるまちに対する「誇り」や「愛着心」を醸成させることができるような事業とする。	継続	産業振興課
2	伝統的ものづくり 親子体験教室	夏休み期間中に小学生親子を対象として、伝統工芸品の制作体験を実施し、地域資源である伝統工芸について理解と関心を深めます。	4.8,9,12, 17	決算額:70千円 予算額:84千円	参加者数/回数	平成26年度 111人/4回 平成27年度 242人/10回 平成28年度 294人/10回 平成29年度 230人/8回 平成30年度 300人/12回 令和元年度 326人/12回 令和2年度 161人/12回 令和3年度 253人/10回	影響なし	157.1%	親子で地域の歴史・文化と共に受け継がれてきた伝統的ものづくりを学び体験することで、地域の資源としての文化やものづくりについての理解と関心を深めるとともに、内外へ発信出来る人を増加させることが出来るよう、継続して実施する。	昨年度同様、参加者間の距離を確保するため1日1講座とし、手指や道具、座席の消毒など感染症対策を講じながら実施する。	親子で地域の歴史・文化と共に受け継がれてきた伝統的ものづくりを学び体験することで、地域の資源としての文化やものづくりについての理解と関心を深めるとともに、内外へ発信出来る人を増加させることが出来るよう、実施する。	継続	産業振興課
3	たかまつ工芸 ウィーク	本市が誇る工芸品の展示や販売、工芸を体感する産地ツアーやワークショップなどを市内の店舗や施設で開催する。	4.8,9,12, 17	決算額:943千円 予算額:1,000千円	参加施設、店舗、 イベント数	令和元年度 42か所・イベント 令和2年度 41か所・イベント 令和3年度 49か所・イベント 令和4年度 44か所・イベント	影響なし	119.5%	令和4年度も、関係団体等と実行委員会を立ち上げ、市内の店舗や施設同士が繋がりあい、工芸に特化した期間をつくることで、高松を工芸の発信地として広く内外にPRする。	集客型イベントや、産地ツアー等の開催は難しいため、実行委員会において、感染リスクが低く、かつPR効果の高い事業内容を検討する。	現在の実行委員会が令和4年度をもって解散する予定であり、本市が委員でなくなることから、本市関連事業としては、令和4年度で終了する。	完了	産業振興課

第2次高松市創造都市推進ビジョンにおける取組について

【工芸プロジェクト】伝統・芸術・デザインで新しい未来を拓く

No.	主な取組事業名	主な取組事業概要	SDGs	R3決算額(千円) R4予算額(千円)	実施実績 (指標)	実施実績 (数値)	実施実績(数値)に 対するコロナの影響 内容	実施実績上昇率 (前年度/前々年 度)	令和4年度事業内容	令和4年度におけるコロナの影響や コロナに対する具体的な対応や取組	令和5年度事業見込	今後の方向 性	主管課 (関係部署)
4	高松盆栽振興事業	平成28年度から高松盆栽の普及及び生産拡大の推進を図るために各種事業を実施します。 ○高松盆栽PR事業 盆栽大会への出展など、高松盆栽のPRを実施 ○盆栽産地振興事業 盆栽産地の振興を図るため、産地の活動を支援 ○盆栽輸出振興事業 盆栽の輸出の拡大を図るため、海外盆栽バイヤーとの商談会の開催及び輸出体制の整備を支援	8.9.11.15	決算額:5,995千円 予算額:—	商談会等の実施	【平成28年度】○高松盆栽のPRグッズ等を作成 ○海外盆栽バイヤーとの商談会を実施 【平成29年度】○平成29年4月にさいたま市で開催された世界盆栽大会に出展し、高松盆栽のPRを実施 【平成30年度】商談会の開催 2回(ベルギー、ドイツ) 【令和元年度】2回(バイヤーの出身国:イタリア、ドイツ) 【令和2年度】0回 【令和3年度】0回	新型コロナウイルス感染症の影響により、海外バイヤーとの商談会は、実施できなかった。	—	令和4年度からNo.5の高松盆栽産地ブランド確立事業へ統合する。	商談会については、盆栽生産者と連携して、香川県産品振興課が実施するオンライン商談会の活用を図る。	—	統合済	農林水産課
5	高松盆栽の郷推進事業 (令和4年度～高松盆栽産地ブランド確立事業)	平成29年度に策定した「高松盆栽の郷」基本構想に基づき、盆栽産地(鬼舞・国分寺地区)の伝統的な盆栽文化の一層の普及・定着による「高松盆栽の郷」の産地そのもののブランド化を図るため、4つの基本方針に基づき香川県と連携しながら総合的な産地振興に取り組んでいきます。 ○国内需要の拡大 新たな需要創出に向けた取組、盆栽の文化や魅力を伝えるための情報発信・PR活動 ○輸出の拡大 輸出品増加のための取組、輸出基盤の強化や販路拡大への取組、盆栽の文化や魅力を伝えるための情報発信・PR活動 ○産地基盤の強化 盆栽後継者の育成のための取組、生産・販売の基盤強化のための取組 ○高松盆栽の郷づくり 「高松盆栽の郷」基本構想に基づくツーリズム等の取組、「高松盆栽の郷」の核となる拠点施設の整備	8.9.11.15	決算額:13,671千円 予算額:8,894千円	「高松盆栽の郷」売上高	令和2年度 23,329千円 令和3年度 29,665千円	新型コロナウイルス感染症の長期化の影響は受けながらも、売上高増加に繋がるウィズコロナの取組を行い、実施実績は増加した。	127.2%	No.4の高松盆栽振興事業を統合し、県と連携して、「高松盆栽の郷」基本構想に基づき、①国内需要の拡大、②輸出の拡大、③産地基盤の強化、④高松盆栽の郷づくりを推進するため、引き続き各種事業を実施する。 高松盆栽の輸出拡大による盆栽産地活性化対策を推進するとともに、拠点施設「高松盆栽の郷」を核とした盆栽ツーリズムや盆栽サブスクリプション等の取組に対する支援を行い、国内外に高松盆栽の産地ブランドの確立を図る。	イベント等については、引き続きオンライン開催を視野に入れた対応を行うとともに、アフターコロナにおいて誘客促進に繋がるよう、「高松盆栽の郷」を対面とオンラインを併用したハイブリッドイベントとして実施した。	県と連携して、高松盆栽の輸出拡大による盆栽産地活性化対策を推進するとともに、拠点施設「高松盆栽の郷」を核とした情報発信や人材育成等の取組に対する支援を行い、国内外に高松盆栽の産地ブランドの確立を図る。 また、イベント等については、引き続きオンライン開催を視野に入れた対応を行うとともに、アフターコロナにおいて誘客促進に繋がるような取組を実施する。	継続	農林水産課
6	むれ源平石あかりロード	地元庵治石の普及振興を始め、地域の賑わいづくりを目的として始めた事業で、市としては、源平屋敷地域活性化事業を通して、後援しています。 「庵治石のあかり」を道路沿いに配置して、源平史跡を巡るイベントで、庵治石とデザイン、史跡を融合した産業観光視点のイベントとして開催されており、期間中の毎週土曜日に限定したライブ等の多彩なイベントを始め、企画展示や観覧参加者が審査するコンテストの実施など、毎年、県内外から多数の参加者を集める事業として注目されています。	8	決算額:1,060千円 予算額:1,060千円	来場者数	平成25年度 75,000人 平成26年度 52,000人 平成27年度 75,000人 平成28年度 80,000人 平成29年度 75,000人 平成30年度 60,000人 令和元年度 70,000人 令和2年度 中止 令和3年度 中止 令和4年度 9,000人	新型コロナウイルスの感染防止対策を実施しながらイベント等を開催した。	—	地元庵治石の普及振興を始め、地域の賑わいづくりを目的として、「庵治石のあかり」を道路沿いに配置し、源平史跡を巡るイベントを実施し、源平史跡を巡るイベントを実施した。	新型コロナウイルスの感染防止対策を実施しながらイベント等を開催した。	地元庵治石の普及振興を始め、地域の賑わいづくりを目的として、「庵治石のあかり」を道路沿いに配置し、源平史跡を巡るイベントの実施を検討しているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を徹底することができない場合は中止する。	継続	観光交流課